

Lalitavistara と『如來秘密經』の仏伝の対応関係

伊 久 間 洋 光

1. はじめに

『密迹經』等の名で『大智度論』に引用される初期大乗經典『如來秘密經¹⁾』には、苦行から転法輪までの仏伝が説かれている。しかしその詳細は未だ検討がなされていない。本稿では『如來秘密經』の仏伝について、*Lalitavistara*との並行箇所の検討から、その諸仏伝における系統について指摘したい。

2. 『如來秘密經』の仏伝と *Lalitavistara* 降魔品の共通する素材

『如來秘密經』の仏伝は法護訳第 11-14 章（菩薩苦行超勝以受食縁成熟衆生品・菩薩詣菩提場品・降魔品・転法輪品）、梵文写本²⁾では第 6 章 *tathāgatavikruvaṇasamdarśana-parivarta*-に記され、菩薩の 6 年間の苦行から転法輪に至るまでを説いている。

Lalitavistara（以下 LV）は 2 世紀半ば頃の成立と考えられる、大乗の立場からの仏伝である。漢訳に竺法護訳『普曜經』、地婆訶羅訳『方広大莊嚴經』がある。LV は内容上、大衆部との関連が指摘されている³⁾。

『如來秘密經』の仏伝の降魔の場面において、菩薩を害しようとする悪魔に対し、樹神が十六種の制止をなす場面が存在する。一方 LV の降魔品においても、同様の記述がなされる（LV 333-335）。構文は異なるものの、両者の内容はほぼ逐語的に対応している。以下に『如來秘密經』梵文写本の当該箇所を提示する⁴⁾：

upasamkrāntā kulaputra māraparśadām viditvā bodhiparicārikā devatānām mārām pāpīyasah
śodaśākārayā vicchandanayā vicchandayanti sma //

alam pāpīyāmsah kim⁵⁾ ca etair evamrūpair⁶⁾ vighātautsāhair⁷⁾ duruttāraiḥ / tat kasmād

① adya yūyam pāpīyāmso⁸⁾ nihaniṣyac ca bodhisatvena mahāmalleneva durvarṇñataro mallah [/]

② adya yūyam pāpīyāmsah parājīsyac⁹⁾ ca bodhisatvena mahāśureneva parasainyam [/]

③ adya yūyam pāpīyāmso 'bhībhavisyac¹⁰⁾ ca bodhisatvena candramāṇḍaleneva¹¹⁾ khadyotāḥ [/]

④ adya yūyam pāpīyāmso¹²⁾ vikṣepṣyac ca { / } bodhisatvena māruteneva tuṣamuṣṭih¹³⁾ [/]

- ⑤ adya yūyam pāpiyāmsah prapātayisyac ca bodhisatvena mahāśāla iva mūlachinnah /
 ⑥ adya yūyam pāpiyāmsas¹⁴⁾ trāsayisyac ca 〃 bodhisatvena mahākeśariṇeva mṛgaganah /
 ⑦ adya yūyam pāpiyāmsah paryādāpayisyac ca 〃 bodhisatvena gos padasthāna¹⁵⁾ iva vāriḥ sūryatāpena /
 ⑧ adya yūyam pāpiyāmso vilopsiyac ca 〃 bodhisatvena amitranagaram iva mahārājena /
 ⑨ adya yūyam pāpiyāmsa¹⁶⁾ ālokyac ca bodhisatvena vadhyanirmukta iva dhūrtapuruṣah /
 ⑩ adya yūyam pāpiyāmsah sambhrāmayisyac ca 〃 bodhisatvena agnidāha iva pathyadanasamṛddho vanik /
 ⑪ adya yūyam pāpiyāmsah śoṣiyac ca 〃 bodhisatvena adharmarāja i[va] rājyāt cyutah /
 ⑫ adya yūyam pāpiyāmso dhyāpayisyac ca 〃 bodhisatvena jīrṇakroñca iva {va} lūnapakṣah /
 ⑬ adya yūyam pāpiyāmso¹⁷⁾ vighātayisyac ca 〃 bodhisatvena atavīkāntāragatā iva kṣīṇapathyadāna /
 ⑭ adya yūyam pāpiyāmsah plāvaiṣyac ca 〃 bodhisatvena sāgaramadhyagatā iva bhinnayānapātrāḥ 〃 /
 ⑮ adya yūyam pāpiyāmso¹⁸⁾ mlāpayisyac ca 〃 bodhisatvena kalpadāhakāla¹⁹⁾ iva tṛṇavanaspatayah /
 ⑯ adya yūyam pāpiyāmso²⁰⁾ vikariṣyac ca 〃 bodhisatvena mahāvajreṇeva pāṣāṇāḥ /

evam hi kulaputra bodhvīkṣaparicārikā devatā tān mārām pāpiyāmsah soḍāśākārayā viccandayā vicchandayati sma / na ca te mārāh pāpiyāmsah pratyudāvarttante sma // (『如来秘密経』梵文写本 16a2–b2)

上記の樹神による制止は LV の梵本および竺法護訳『普曜経』に見られる。また LV の梵本とは別系統とされる異訳『方広大莊嚴經』には「十六趣言詞」とのみ説かれ、詳細は述べられていない。

『如来秘密経』の諸本を見ると、上記に相当する箇所は竺法護訳『大宝積経』『密迹金剛力士会』にすでに述べられている。そのことから、竺法護による両經典の初訳において、当初から『如来秘密経』の仏伝と LV とが共通の素材に基づいていることが確かめられる²¹⁾。

3. 諸仏伝における『如来秘密経』の仏伝の系統

上記の検討によって、『如来秘密経』の仏伝と LV とが共通の素材に基づいていることが確かめられた。本項ではその両經典に共通する素材の有無を指標として、諸仏伝における『如来秘密経』の仏伝の系統を確認する。

仏伝の諸系統を俯瞰すると、まず有部の資料である『根本說一切有部毘那耶』には当該の記述は見られない。またパーリの資料には降魔の記述はないため、当該の並行箇所もない。サンスクリット語で記された仏伝においては、Buddhacarita には当該の記述はない。一方、LV および『如来秘密経』と関係を有する²²⁾

Mahāvastu (II-270) の降魔の記述には一部並行箇所が認められる、しかし *Mahāvastu* (以下 MV) の並行箇所は数が14と異なり、発話者は樹神ではなく菩薩であり、内容も一部しか合致しない。また、漢訳の仏伝資料には、『仏本行集經』のみに当該箇所と一致する箇所が認められる。『仏本行集經』の並行箇所は『如來秘密經』の仏伝および LV に逐語的に一致している。しかし岡野1991によって、『仏本行集經』が LV と *Buddhacarita* からなる改作仏伝であり、当該の並行箇所は LV に基づいていることが既に指摘されている。

以上を整理すると、『如來秘密經』の仏伝と LV の共通の素材は、両典籍に関する MV に見出だされるが、全同ではない。また漢訳資料には、当該の箇所は、両典籍の他、LV の系統の『仏本行集經』にしか確認されない。

以上のことから、次の結論が導かれる。即ち、『如來秘密經』の仏伝が、LV の系統の仏伝であるということである。『普曜經』の訳出年は308年であるが、後述するように、岡野1990は『出三藏記集』の記述等から、LV の原型（古 LV）の成立年代を西暦200年より数十年遡ると想定している。一方『密迹金剛力士經』の訳出年は『普曜經』より20年早い288年であり、前後関係から、『密迹金剛力士經』が直接『普曜經』を借用したとは考え難い。そのことから、『如來秘密經』の仏伝は、LV の原型たる古 LV か、或いは第三の共通するソースを素材として編纂されたと考えられる。

4. *Lalitavistara* の成立年代

LV の成立年代の下限は、まず竺法護訳による『普曜經』の訳出年（308年）に求められる。しかし岡野1990により、『出三藏記集』卷四「新集統撰失訳雜經錄」中の「蜀普曜經八卷 旧錄所載似蜀土所出」という記述から、より古い LV の訳出が知られることが指摘されている。この記録によれば、蜀（221–263年）に LV の初訳がなされたことになる。また Matsuda 1989 により、『太子瑞應本起經』（222–252 年に訳出）に『普曜經』の十八変品の箇所が含まれていることが指摘された。これについて、岡野1990は『太子瑞應本起經』が既に中国に伝わっていた LV の原典から取られたと見做すべきであると指摘し、LV の成立の下限を『太子瑞應經』の訳出年代である 222–252 年以前に遡らせる根拠とした。そして上記の2点等から、岡野1990は、LV の成立年代を西暦200年より数十年遡ると推測した。

本稿の考察により、288年の初訳である『如來秘密經』の仏伝が LV の系統であることが確かめられた。その『如來秘密經』の仏伝は古 LV を素材として編纂

されたと見做しうる。そのことから、『如来秘密経』の編纂と伝播の期間も考慮し、編纂材料である古 LV の成立は『如来秘密経』初訳の288年よりさらに半世紀程遡ると考えられる。また、『如来秘密経』は梵文原典の現存する資料である。その為、以上のこととは、LV の成立年代に関し、中国の資料によった岡野1990の推定を、梵文資料に基づいて間接的に裏付けるものとなる。

- 1) 『如来秘密経』は古くは *Guhyakādhipatinirdeśa* (『密迹金剛力士経』), 後には *Tathāgata-guhyaśūtra* (『如来秘密経』) の名で論書に引用されている。浜野1987を参照。
- 2) 『如来秘密経』梵文写本の詳細については伊久間2013を参照。筆者は現在、当該梵文写本の校訂を準備中である。
- 3) 岡野1990を参照。
- 4) 以下、『如来秘密経』の梵文写本 (Ms.) の校訂は筆者による。校訂文中の { } は取り去るべき文字を、[] は加えるべき文字を示す。
- 5) Ms. kiñ.
- 6) Ms. evamṛūpaih.
- 7) Ms. vighātutsāhaiḥ.
- 8) Ms. pāpiyāṁsaḥ.
- 9) Ms. parājiṣyec.
- 10) Ms. pāpiyāṁsaḥ abhibhaviṣyac.
- 11) Ms. candramanḍalenaiva.
- 12) Ms. pāpiyāṁsaḥ.
- 13) Ms. yusamuṣṭih. Tib. phuṇ ma, 法護訳「糠粃」に従い訂正。
- 14) Ms. pāpiyāṁsaḥ.
- 15) Ms. padastham. Tib. rjes, 法護訳「牛跡」に従い訂正。
- 16) Ms. sah. h が筆写生により削除の指示をされている。
- 17) Ms. pāpiyāṁsaḥ.
- 18) Ms. pāpiyāṁsaḥ.
- 19) Ms. kalpo dāhakāla.
- 20) Ms. pāpiyāṁsaḥ.
- 21) 常盤1930によって、LV に見られる十六種の制止のうち、③螢火・⑦牛跡の喻えが『維摩經』に見られることが指摘されている。その『維摩經』は『如来秘密経』の関連經典と考えられる。伊久間2016を参照。
- 22) MV と『如来秘密経』の関係については伊久間2016を参照。

〈一次資料〉

・『如来秘密経』

梵文写本: See Śāstri 1917, No. 18.

梵文写本翻刻: 伊久間2014, 2015.

翻訳:

Tib. *hPhags pa de bshin gṣegs pahi gsāñ ba bsam gyis mi khyab pa bstan pa shes bya ba theg pa chen poḥi mdo* Toh. No. 47, Ota. No. 760-3.

Chi. 『大宝積經』「密迹金剛力士會」竺法護訳 大正 No. 310.

『仏說如來不思議秘密大乘經』法護訳 大正 No. 312.

〈二次資料〉

欧文

- Matsuda, Yuko. 1988. "Chinese Vertion of the Buddha's Biography." *IBK* 37(1): 24–33.
- Śāstri, Haraprasād. 1917. *Descriptive Catalogue of Sanskrit Manuscripts in the Asiatic society of Bengal*. Vol. 1. Calcutta: Asiatic society of Bengal.
- Senart, E. 1882–1897. *Le Mahāvastu*. 3 vols. Paris: Imprimerie Nationale.

和文

- 伊久間洋光 2013 「『如來秘密經』の梵文写本について」『印仏研』61(2): 171–175.
- 2014 「『如來秘密經』梵文写本の翻刻——法護訳第25章: *Tathāgaguhyā(kā) Dhāraṇī* 対応箇所——」『豊山学報』57: 108–91.
- 2015 「『如來秘密經』梵文写本の翻刻——法護訳第23章・第24章対応箇所——」『豊山学報』58: 88–47.
- 2016 「一字不説——『如來秘密經』の神変を中心に——」『密教学研究』48: 1–14.
- 岡野潔 1990 「普曜経の研究（下）」『文化』53(3/4): 249–268.
- 1991 「ブッダチャリタの改作仏伝について——仏本行集経と方広大莊嚴経に用いられた未知の仏伝——」『インド思想における人間観（東北大印度学講座設立65周年記念論文集）』平楽寺書店, 57–77.
- 常盤大定 1930 『國訳一切經印度撰述部 本縁部九』大東出版社.
- 浜野哲敬 1987 「『如來秘密經』の仏陀觀」『印仏研』36(1): 42–46.
- 外薗幸一 1994 『ラリタヴィスチラの研究 上巻』大東出版社.

〈キーワード〉 初期大乗經典, 竺法護, 『普曜經』, 降魔

(大正大学綜合佛教研究所研究員)